

*** 萩原雄祐の文化勲章受章記念祝賀会記念写真？**

萩原雄祐 (1897年3月28日 - 1979年1月29日) (写真1) は1946年10月12日～1957年3月31日まで東京天文台長を務めた日本を代表する天文学者で専門は天体力学、1954年には文化勲章を受章している。



写真1 萩原雄祐

今回は東京天文台であった萩原雄祐の文化勲章受賞祝賀会の記念写真(写真2)である。文化勲章を受章した天文学者には1937年の第1回文化勲章受章者として木村栄がおり、1944年には田中館愛橘(1856～1952)が、1986年には林忠四郎が文化勲章を受章している。



写真2 萩原雄祐の文化勲章受賞祝賀会記念写真

この写真は今まで何度か見たことがある。「東京天文台の百年」という冊子に東京天文台 75 周年記念撮影（昭和 28 年）として掲載されている。この写真が萩原雄祐の文化勲章受賞祝賀会の記念写真と分かったのは、2008 年 10 月 20 日に亡くなった元岡山天体物理観測所副所長であった清水実氏のお悔やみにお宅を訪ね、遺品のスワロフ日食、セイロン日食などのアルバムを見せていただき、古い天文学会の記念写真と一緒にアーカイブのためお借りしてスキャナーで取り込んでいた際、この写真の裏（写真 3）を見て気がついた。よく見れば中央の萩原雄祐の胸には花がついている。

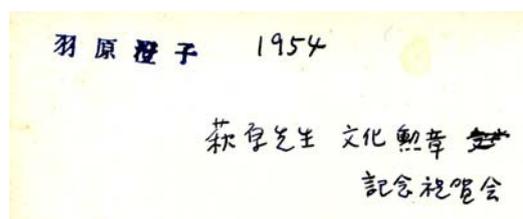


写真 3 写真の裏に萩原雄祐の文化勲章記念祝賀会と書かれた文字

この写真の裏の羽原澄子さんは清水夫人である。この写真の前から 3 列目、女の人の一番左に写っている人で、現在、ご健在である。その人のメモだが、東京天文台百年の冊子という公文書ともいえる冊子の記述と違っている。

この写真には、現在ご健在で筆者がよくご存知の方が何人かいらっしゃる。古在由秀元台長、海野和二郎先生、高瀬文志郎先生、西恵三先生などの先生他多数の方である。何人かの方に確認してみようと思う。

萩原雄祐は戦後日本の天文学に明白な指針を示し、実現させていった大きな業績を残している。萩原雄祐は、日本は世界的に見てアメリカ、ヨーロッパと並んで天文観測の鼎の三脚の一脚に位置している、したがって世界に伍した観測装置を持たねばならないと主張し、昭和 24 年には乗鞍コロナ観測所を建設、そして昭和 35 年に完成した岡山天体物理観測所をはじめ、堂平観測所、木曾観測所のシュミット望遠鏡までの本格的な観測装置構想が彼の構想であったといわれている。もっとも堂平観測所に設置された 91cm 天体写真儀(36 インチ反射望遠鏡)は萩原構想では岡山に設置されることになっており、岡山にはその予定地があった。

萩原先生の逸話として、天皇に御進講の際、日本に大型望遠鏡の必要性を訴えたという話がある。これが当時世界 7 番目の岡山天体物理観測所の 188cm 望遠鏡実現に繋がったと聞かされている。

萩原雄祐の年譜を簡単に紹介しておこう。

1921 年：東京帝大理学部天文学科卒業、東京大学東京天文台助手

1923 年：東大助教授。欧米に留学、ケンブリッジ大学でエディントンに師事

1927 年：東京大学理学博士

1935 年：東京大学教授

1946 年：東京天文台長併任

1950年：乗鞍コロナ観測所開設

1954年：文化勲章受章

1957年：東京大学定年（東京天文台長）退官、東北大学教授

1960年：全米科学アカデミーのジェームズ・クレイグ・ワトソン・メダル受賞
宇都宮大学長、岡山天体物理観測所に188 cm反射望遠鏡を設置。

1964年：宇都宮大学長退官

1967年：勲一等瑞宝章受章

1975年：朝日賞を受賞

追記：この記念写真が昭和28年（1953年）の東京大学東京天文台75周年記念の際の写真なのか、昭和29年（1954年）の萩原雄祐文化勲章受賞記念祝賀会の写真なのか検証して、この記事は書くべきであったかもしれない。しかし、この記事は新聞として出している。ご健在の方のメモが存在していた事実であり、記事の検証が前後することをご容赦いただきたい。